

平成28年度 鳥取市中心市街地活性化に関する 調査概要

平成29年3月
鳥取市 都市整備部 中心市街地整備課

1 アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

鳥取市では、平成25年3月に策定した「第2期鳥取市中心市街地活性化基本計画」の期間が平成30年3月に終了することから、平成29年度に第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画を策定し、引き続き中心市街地の活性化に取り組むこととしている。

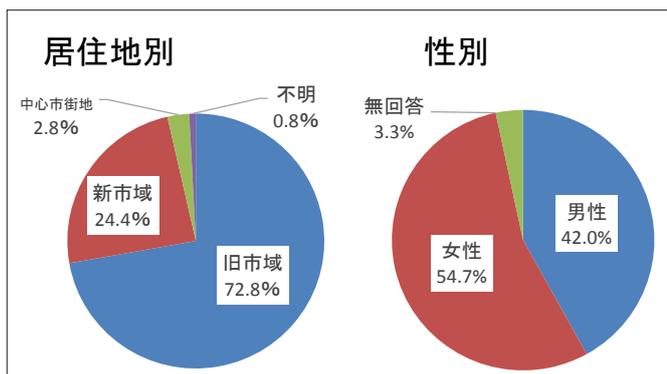
その計画策定に向けての郵送アンケートを実施し広く市民の意見を収集し、把握することを目的とする。

(2) 調査の内容

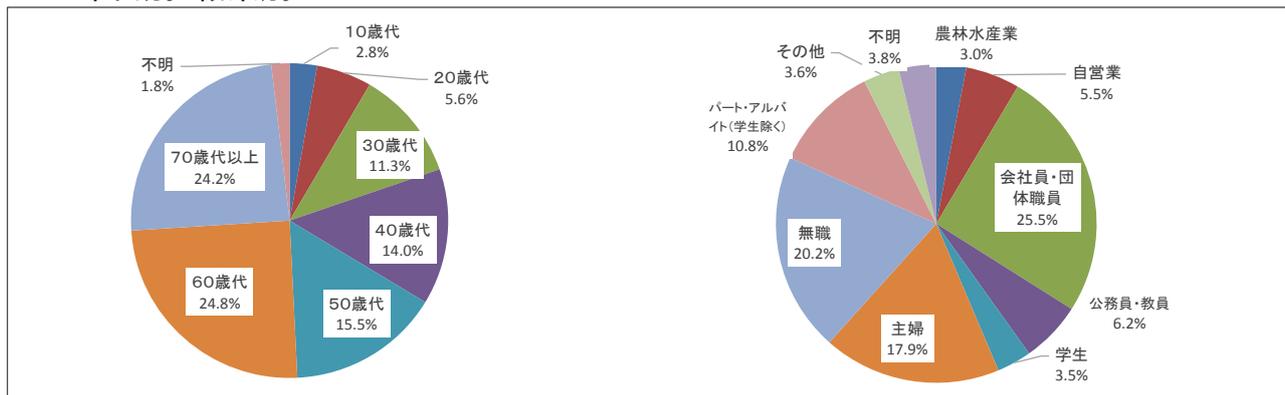
- | | |
|-------|------------------------|
| ①調査対象 | 満15歳以上の市民4,000人 |
| ②調査方法 | 郵送調査 |
| ③調査期間 | 平成29年2月13日(月)～2月28日(火) |

(3) 配布・回収結果

- ①配布数 3,998枚
- ②回収数 1,461枚
- ③回収率 36.5%



年代別・職業別

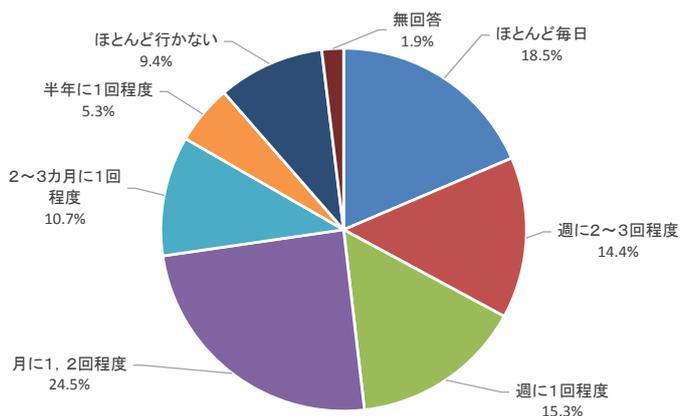


2 調査結果の概要

(1) 中心市街地との関わり

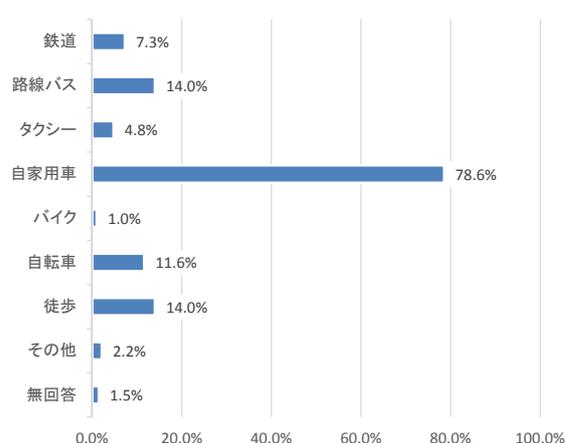
①中心市街地に出かける頻度

出かける頻度では、「月に1, 2回程度」(24.5%)が最も多く、「ほとんど毎日」(18.5%)が続く。一方、「ほとんど行かない」(9.4%)があるが、前回調査時の平日:19.1%、休日:17.6%より改善している。年代別では、10代(ほとんど毎日:46.3%)と40代(ほとんど毎日:27.5%)で出かける頻度が多く、居住地では旧市域ほど多い。



②中心市街地に出かける交通手段

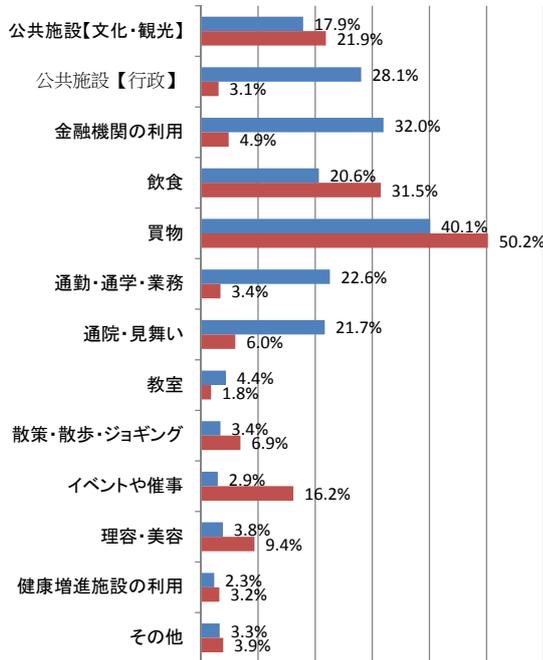
交通手段では「自家用車」(78.6%)が突出している。公共交通機関の利用は「鉄道」「路線バス」を合せて、21.3%となっている。自家用車利用は特に新市域(88.1%)が多く、鉄道利用は、学生(43.1%)が特に多い。



③中心市街地に出かける目的

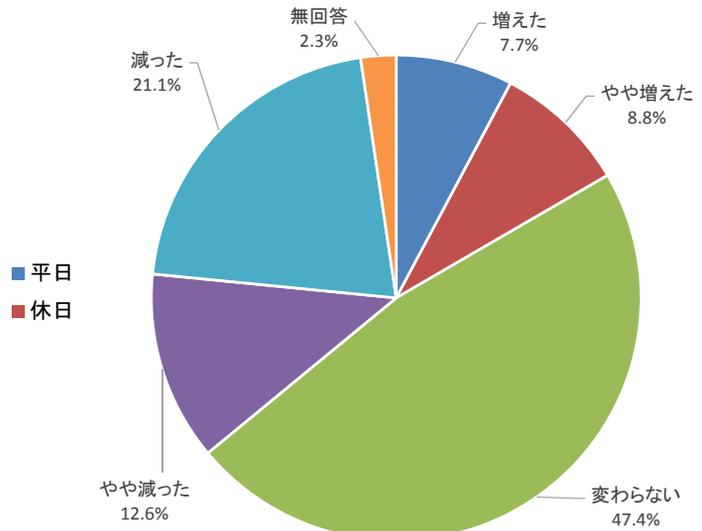
平日、休日ともに「買物」が最も多い(平日:40.1%、休日:50.2%)。平日では、次いで「金融機関の利用」(32.0%)、「公共施設【行政】」(28.1%)である。休日では、「飲食」(31.5%)、「公共施設【文化・観光】」(21.9%)である。

前回調査時と比べ、「公共施設」と「飲食」は平日、休日ともに若干増加している。



④5年前と比べた、中心市街地に出かける機会の増減

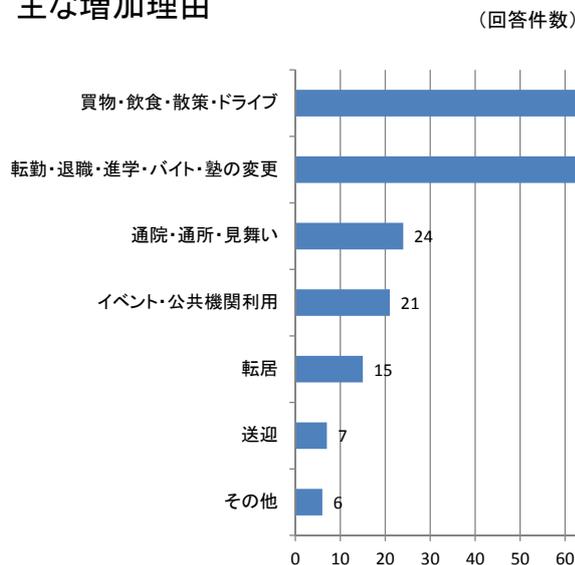
5年前と比べ「変わらない」(47.4%)が最も多く、前回調査の傾向と大きく変わらないが、若年層かつ居住地域が旧市域ほど増え、逆に、高齢層かつ居住地域が新市域の者ほど中心市街地に出かける機会が減る傾向がうかがえる。



出かける機会が増減した理由

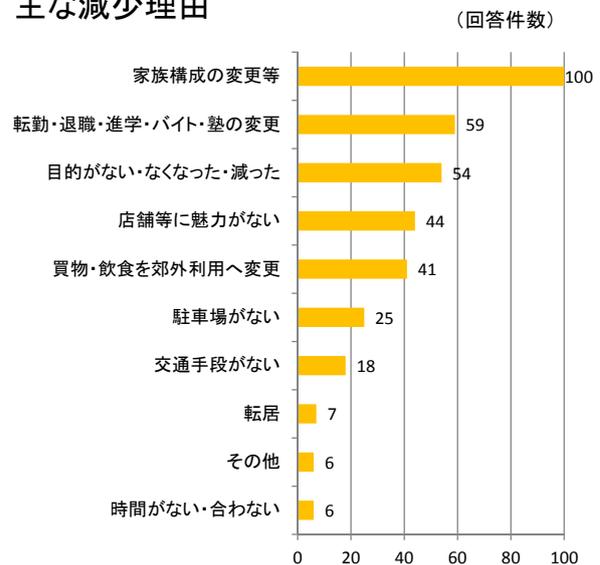
出かける機会が「増えた(「やや増えた」含む)」の主な理由は、「買物・飲食等」と「通勤・退職等」が最も多く、次いで「通院・通所等」が主な理由として続いている。

主な増加理由



出かける機会が「減った(「やや減った」含む)」の主な理由は、「家族構成の変更等」で通学の関係や高齢化に伴う外出機会の減少が多くなっている。

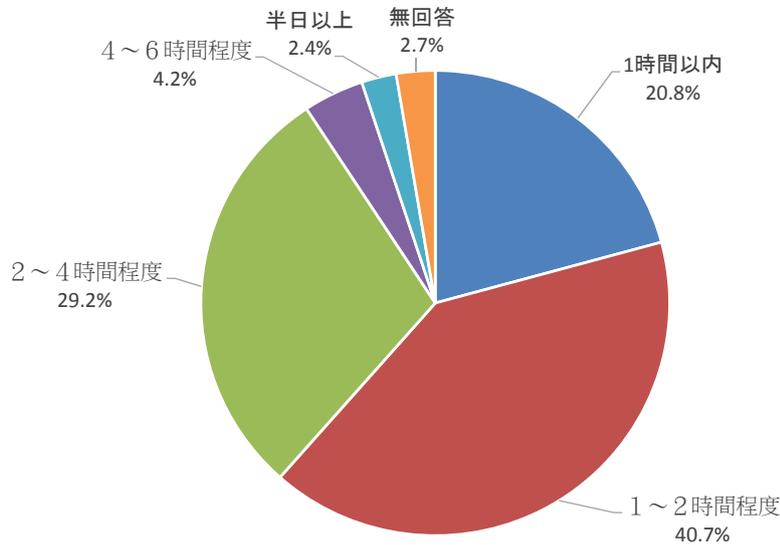
主な減少理由



⑤ 中心市街地に出かけた場合の平均的な滞在時間

全体では「1～2時間程度」が最も多く40.7%、次いで「2～4時間程度」が29.2%となっている。

年代別では、各年代とも「1～2時間程度」が最も多く、「2～4時間程度」が次いで多くなっている中、「40歳代」「50歳代」においては、「1時間以内」が「2～4時間程度」を上回る結果となっている。前回調査も同様の傾向が見られる。



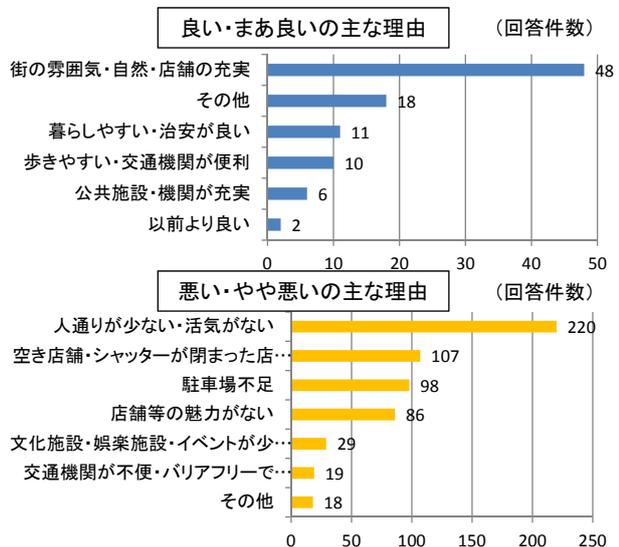
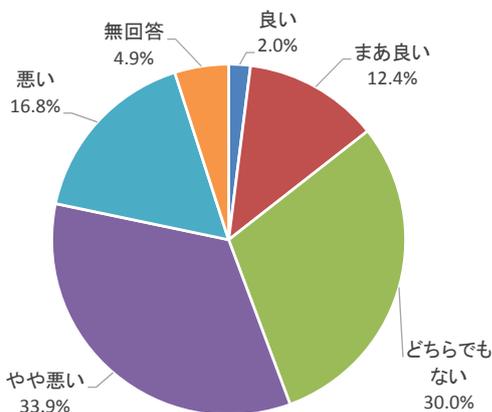
6

(2) 中心市街地のあり方

① 中心市街地の現在の印象

良い(2.0%)とまあ良い(12.4%)合せて14.4%。悪い(16.8%)とやや悪い(33.9%)を合せて50.7%と印象が悪いが良いを上回る結果となった。

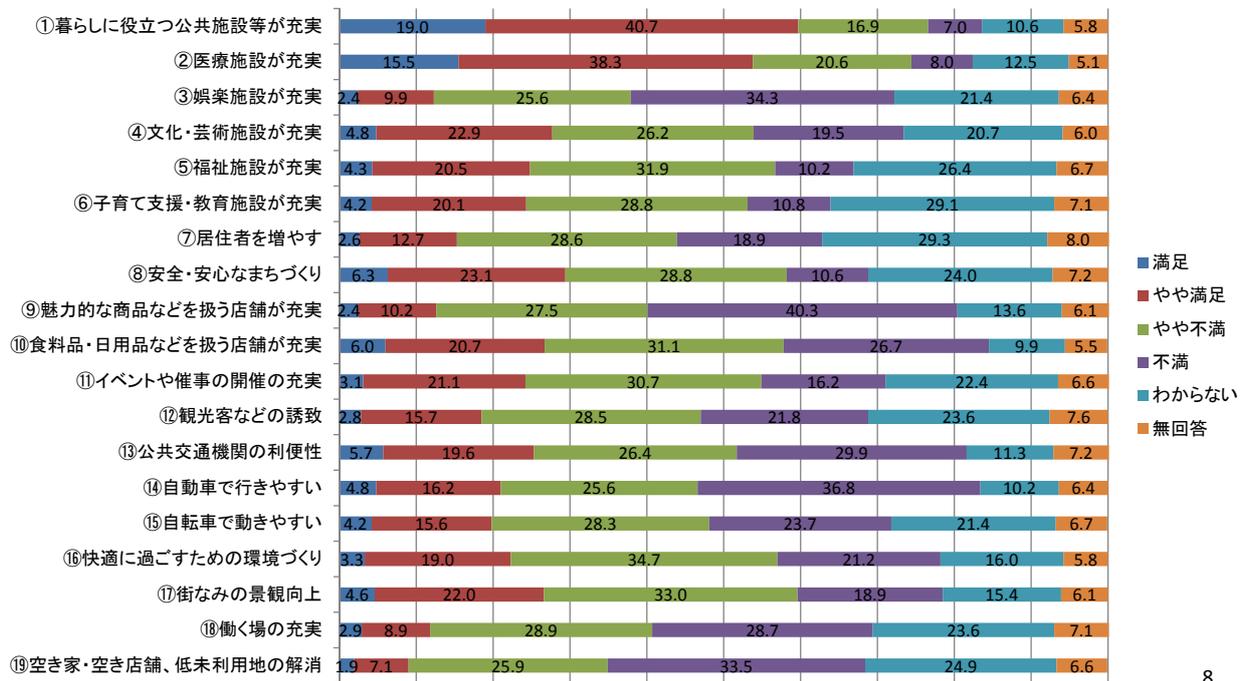
前回調査時と比較すると、「良い」、「まあ良い」を合わせて3.0%減少、「悪い」、「やや悪い」を合わせて6.3%増加し、中心市街地に対する印象が悪化している。



7

② 中心市街地の満足度

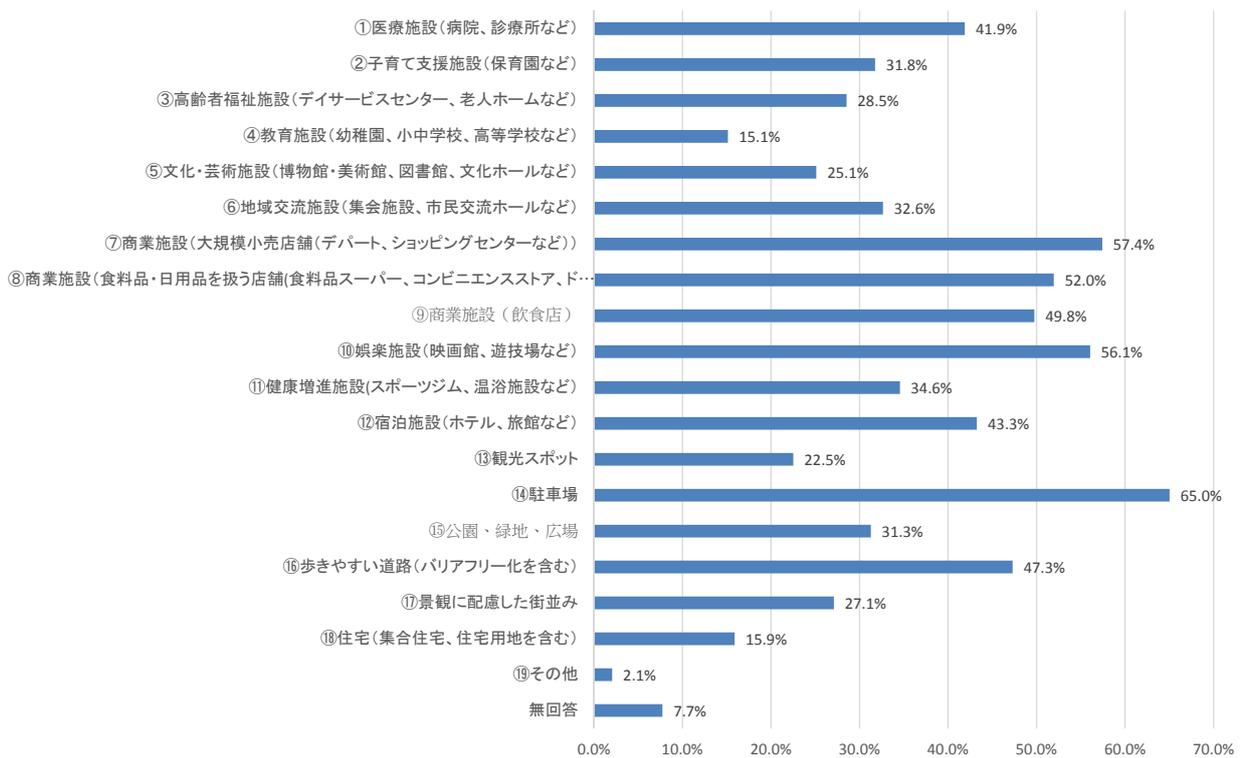
中心市街地の満足度では、19設問中17設問で「不満(やや不満)」が「満足(やや満足)」を上回った。マイナスのポイント差が大きかったのは、「⑨魅力的な商品などを扱う店舗が充実」(▲55.2ポイント)、「⑱空き家・空き店舗・低未利用地の解消」(▲50.4ポイント)、「②娯楽施設が充実」(▲47.6ポイント)の順であった。一方、プラスは「①暮らしに役立つ公共施設が充実」(35.8ポイント)、「②医療施設が充実」(25.2ポイント)のみであった。



8

③ 今後、整備・充実すべきと思われる施設(鳥取駅周辺地区)

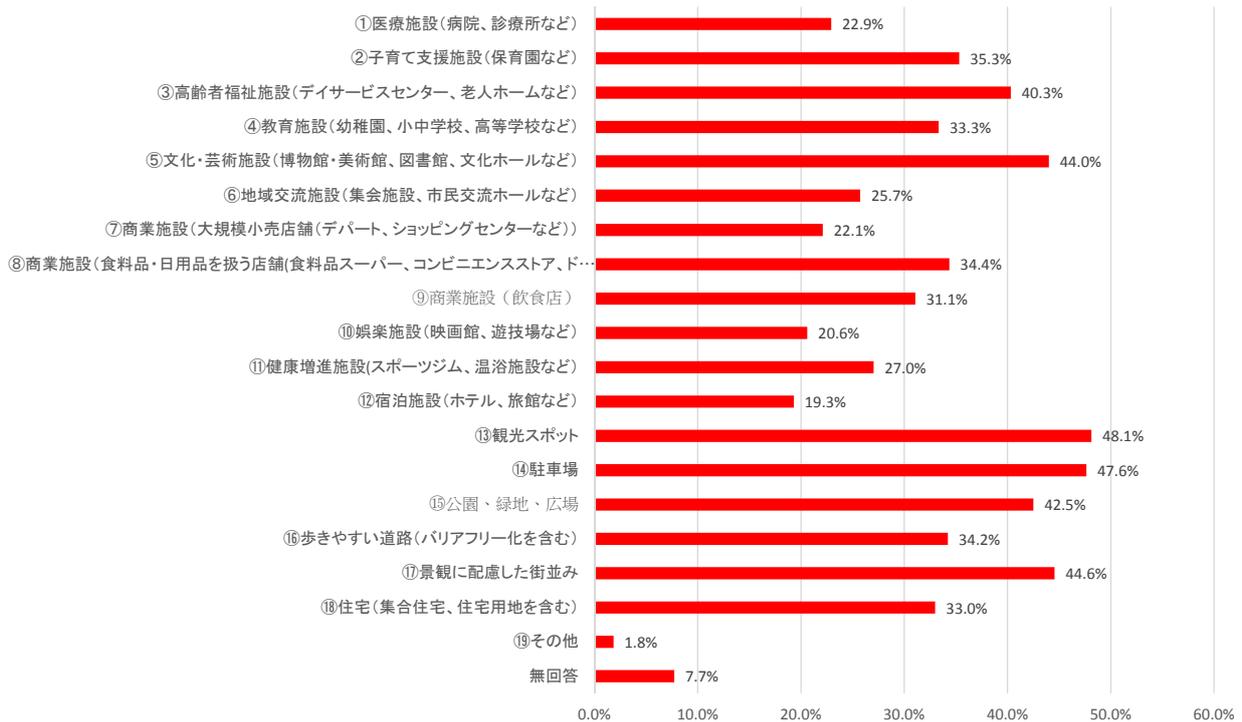
鳥取駅周辺地区で充実すべきと思われる施設で多かったのは、⑭駐車場(65.0%)、⑦大規模商業施設(57.4%)、⑩娯楽施設(56.1%)の順であった。



9

③ 今後、整備・充実すべきと思われる施設(鳥取城跡周辺地区)

鳥取城跡周辺地区で充実すべきと思われる施設で多かったのは、⑬観光スポット(48.1%)、⑭駐車場(47.6%)、⑰景観に配慮した街なみ(44.6%)の順であった。

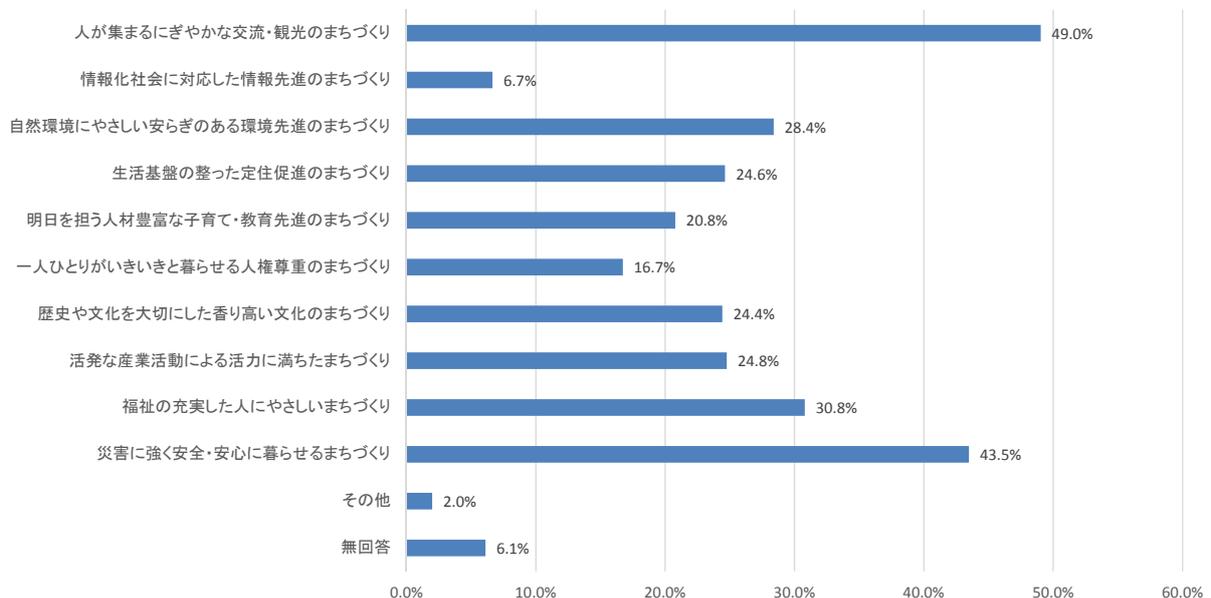


10

④ 今後のまちづくりの方向性

今後のまちづくりの方向性として多かったのは、「人が集まるにぎやかな交流・観光のまちづくり」(49.0%)、「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり」(43.5%)、「福祉の充実した人にやさしいまちづくり」(30.8%)の順であった。

交流・観光など本市の中心地としての賑わい、多発する自然災害等への備えや進展が予測される高齢化への対応など生活に密着した施策の充実が今後のまちづくりに求められていることがうかがえる。



11

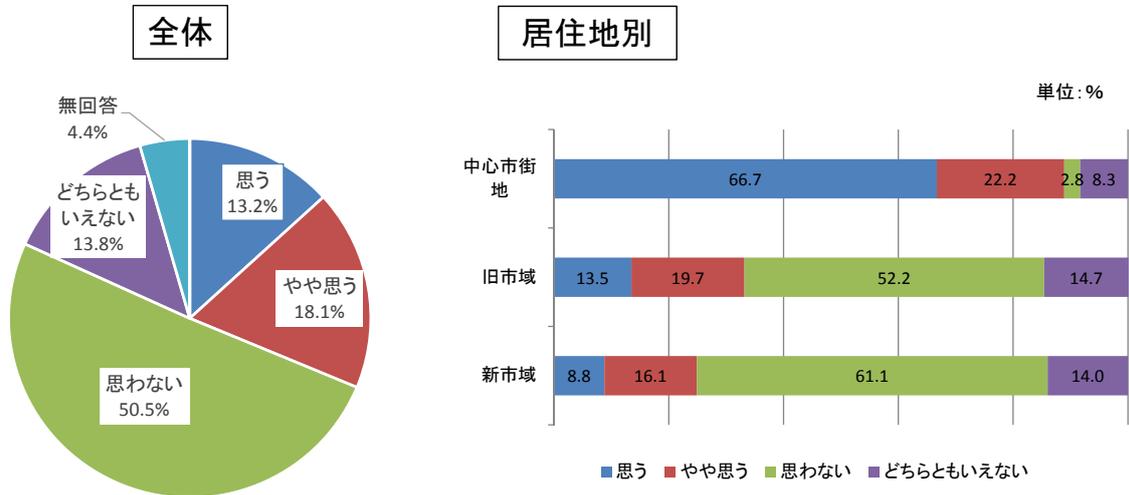
(3) 街なか居住について

① 中心市街地に住んでみたいと思うか

思う(13.2%)、やや思う(18.1%)を合せて31.3%。一方、思わない(50.5%)が過半数を占めている。

また、居住地別では中心市街地に現在住んでいる者ほど「思う」の割合が高い。

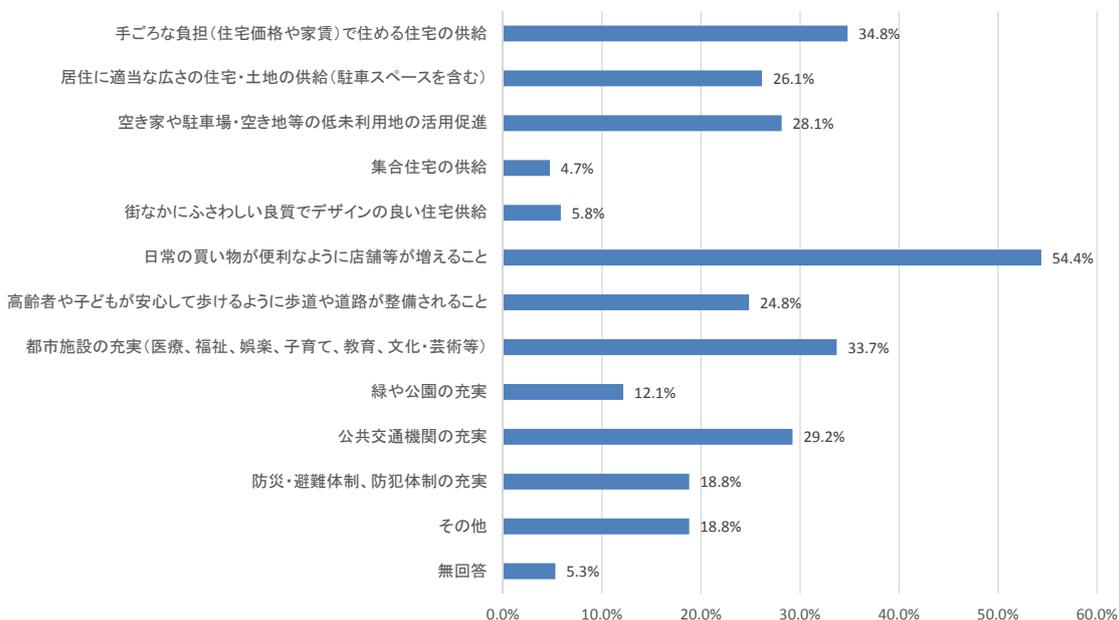
住みたいと思わない理由の多くが「今のところがいい」や「田舎がいい・静かなところがいい・広いところがいい」などとなっていることから、現在の居住地に対する愛着とともに、住環境として閑静かつ敷地の広さなど個々の生活様式に合致し、より条件の良い場所を求める傾向が強いことがうかがえる。



12

② 街なか居住が進むために必要だと思われること

「日常の買い物 conveniently 店舗等が増えること」(54.4%)が最も多く、次いで、「手ごろな負担(住宅価格や家賃)で住める住宅の供給」(34.8%)、「都市施設の充実(医療、福祉、娯楽、子育て、教育、文化・芸術等)」(33.7%)、「公共交通機関の充実」(29.2%)となっており、比較的、市民生活に密着した都市機能の向上を居住の条件としている傾向がうかがえる。



13